

論文内容の要旨

氏名	上田敏朗
学位の種類	博士(医学)
学位記番号	医第899号
学位授与の日付	平成18年3月22日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	Evaluation of depression with actigraphy (アクチグラフによるうつ病の評価)
論文審査委員(主査)	教授 人見 一彦
(副主査)	教授 稲瀬 正彦
(副主査)	教授 楠 進

【目的】

身体活動量を客観的に測定する方法であるアクチグラフを用いて、メランコリー型大うつ病性障害患者の代表的な主観的体験である気分の日内変動を客観的に評価した。

【方法】

対象は近畿大学医学部附属病院メンタルヘルス科に入院した日内変動が認められるメランコリー型大うつ病性障害患者の10名(男性4名、女性6名)である。本対象にアクチグラフを入院初日から退院日(平均在院日数30日)まで連続して装着した。正常対照者は年齢をほぼ一致させた10名(男性2名、女性8名)であり、できるだけ規則的な生活を送るように依頼し1週間連続装着した。患者群では治療開始直後(入院第2病日)と軽快期(退院前日)の、4つの時間帯(6時～12時、12時～18時、18時～24時、0時～6時)における活動量および24時間の活動量を求め、ついで全体に対する各時間帯の活動量の比率を求めた。正常対照群では装着後2日目の同値を求めた。

うつ病の症状評価としては、Zungの自己評価尺度を用いた。治療開始直後は平均 60.8 ± 6.03 であり、軽快期には平均 29.5 ± 5.46 となった。

【結果】

うつ病群の治療開始直後と軽快期および正常対照群において、12時～18時の時間帯と18時～24時の時間帯の活動量の比率を比較すると、12時～18時の時間帯で有意に高かった。うつ病群の治療開始直後と軽快期および正常対照群において、0時～6時の時間帯の活動量の比率は6時～12時と12時～18時の時間帯の活動量の比率を比較すると有意に低かった。しかし、正常対照群と軽快期のうつ病群の活動量の比率は、治療開始直後のうつ病群の活動量の比率の一日のパターンと類似していた。

軽快期のうつ病群と比較して、治療開始直後のうつ病群では、12時～18時の時間帯の活動量の比率が治療開始直後の同時間帯のそれに比べて有意に高かった。

正常対照群と比較して、治療開始直後のうつ病群では12時～18時の時間帯の活動量の比率が有意に高く、また18時～24時の時間帯でのそれは有意に低かった。

正常対照群と比較して、軽快期のうつ病群では各々の時間帯で活動量の比率の顕著な相違は認められなかった。

【考察】

日内変動は病相期では相対的に12時～18時の活動量の比率が高くなるが、うつ病の改善とともに、正常対照群と同様の活動パターンに戻ることに、および各時間帯における活動量の均質化が治療後に認められたことから、アクチグラフを用いてメランコリー型大うつ病性障害に見られる主観的体験と考えられていた日内変動を客観的に証明することができた。これはうつ病症状の客観的な評価のみならず、薬物療法による治療効果判定にも有用な手段となる。

【結論】

従来から主観的評価に頼ってきたうつ病に見られる日内変動を、メランコリー型大うつ病性障害を対象に、アクチグラフを用いて客観的に評価することができた。

論文審査結果の要旨

身体活動を客観的に測定する方法であるアクチグラフを用いて、メランコリー型大うつ病性障害患者の代表的な主観的体験である気分の日内変動を客観的に評価した。

対象は近畿大学医学部附属病院メンタルヘルス科に入院した日内変動が認められるメランコリー型大うつ病性障害患者10名（男性4名、女性6名）である。本対象にアクチグラフを入院初日から退院日（平均在院日数30日）まで連続して装着した。正常対照者は年齢をほぼ一致させた10名（男性2名、女性8名）であり、できるだけ規則的な生活を送るように依頼して1週間連続装着した。患者群では治療開始直後（入院第2病日）と軽快期（退院前日）の、4つの時間帯（6時～12時、12時～18時、18時～24時、0時～6時）における活動量および24時間の活動量を求め、ついで全体に対する各時間帯の活動量の比率を求めた。正常対照群では装着後2日目の同値を求めた。

うつ病の症状評価としては、最も一般的に用いられているZungのうつ病の自己評価尺度を用いた。うつ病患者は治療開始直後はすべて53点以上で平均 60.8 ± 6.03 であり、軽快期には35点以下で平均 29.5 ± 5.46 となった。抗うつ剤のimipramine換算による力価についても治療開始直後と軽快期との間に有意な相違は認めなかった。

うつ病群の治療開始直後と軽快期および正常対照群において、12時～18時の時間帯と18時～24時の時間帯の活動量の比率を比較すると、12時～18時の時間帯で有意に高かった。うつ病群の治療開始直後と軽快期および正常対照群において、0時～6時の時間帯の活動量の比率は6時

博士論文の印刷公表	公 表 年 月 日	出版物の種類及び名称
	2005年2月 日 公 表	出版物名 SLEEP AND BIOLOGICAL RHYTHMS Vol. 3 No.1 p.22~26.
	公 表 内 容	2005年2月 日 発 行
	全 文	

～12時と12時～18時の時間帯の活動量の比率と比較すると有意に低かった。しかし、正常対照群と軽快期のうつ病群の活動量の比率は、治療開始直後のうつ病群の活動量の比率の一日のパターンと類似していた。

軽快期のうつ病群と比較して、治療開始直後のうつ病群では、12時～18時の時間帯の活動量の比率が治療開始直後の同時間帯のそれに比べて有意に高かった。

正常対照群と比較して、治療開始直後のうつ病群では12時～18時の時間帯に活動量の比率が有意に高く、また18時～24時の時間帯でのそれは有意に低かった。

正常対照群と比較して、軽快期のうつ病群では各々の時間帯で活動量の比率の顕著な相違は認められなかった。

日内変動は病相期では相対的に12～18時の活動量の比率が高くなるが、うつ病の改善とともに、正常対照群と同様の活動のパターンに戻ることに、および各時間帯における活動量の比率の均質化が治療後に認められたことから、アクチグラフを用いてメランコリー型大うつ病性障害に見られる主観的体験と考えられていた日内変動を客観的に証明することができた。これはうつ病症状の客観的な評価のみならず、薬物療法による治療効果判定にも有用な手段となることを示している。

従来から主観的評価に頼ってきたうつ病に見られる日内変動を、メランコリー型大うつ病性障害を対象に、アクチグラフを用いて客観的に評価することができた。

これはうつ病症状の客観的な評価のみならず治療効果判定にも有用であり、うつ病治療に寄与する意義のある

研究である。よって、審査委員は博士學位論文公聴（平成18年2月10日）を行って慎重に審議した結果、本論文を學位論文に値するものと認めた。